

にかほ



あったかい鍋料理

2月15日、道の駅象潟「ねむの丘」特設会場で「あつあつ！おらほの鍋自慢」が行われました。

時折、雨が降る中でのイベントとなりましたが、あったかい鍋料理を食べる多くの観光客で賑わいをみせていました。

＝関連記事8ページ＝

vol.83

2009

3.1

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

郷土を愛す にかほ市 文化財

真牛書



種別 市指定有形文化財（書跡）
指定日 昭和49年3月1日
所在地 仁賀保勤労青少年ホーム

真牛は越後の国（新潟県）生まれ。矢島の竜源寺の17代住職をつとめ、明治6年（1873）に畑の秀泉寺に隠棲し、のちに寺田に不牛庵を営み、明治15年（1882）に75歳で亡くなっています。

中肉長身、色白、読経の声よく、人に親切、書道、漢詩に優れ、特に書は一生涯手習いを忘れることはなかったといわれます。草書の大字を得意とし、犬養木堂は、良寛、芳村、真牛を日本草書の「三傑人」と評しています。

この書は、真牛が稲ワラのミゴで筆を作って書いたといわれており、「鱗鳳龍」と力強く書かれています。高さ2・9m、幅5・1mの屏風に仕立てられています。寺田の神明社の天井にあつたものです。

真牛は越後の国（新潟県）生まれ。矢島の竜源寺の17代住職をつとめ、明治6年（1873）に畑の秀泉寺に隠棲し、のちに寺田に不牛庵を営み、明治15年（1882）に75歳で亡くなっています。

中肉長身、色白、読経の声よく、人に親切、書道、漢詩に優れ、特に書は一生涯手習いを忘れることはなかったといわれます。草書の大字を得意とし、犬養木堂は、良寛、芳村、真牛を日本草書の「三傑人」と評しています。

この書は、真牛が稲ワラのミゴで筆を作って書いたといわれており、「鱗鳳龍」と力強く書かれています。高さ2・9m、幅5・1mの屏風に仕立てられています。寺田の神明社の天井にあつたものです。



フォトギャラリー

広報にかほでは、皆さんの身近な出来事の写真を募集しています。あなたの写真をこのコーナーに飾ってみませんか。

市民の皆さんからの多くの写真をお待ちしております。

※詳しくは、広報広聴係（☎43-7510）に問い合わせください。

▲題名『風車とひばり荘』

写真提供：須藤作男さん（長岡）

大寒の最中とはとても思えない、撮影日和に恵まれ、写友と楽しく撮ることができました。

風車と鳥海山の恵まれた眺望に感謝！

▶題名『イソギンチャクもハタハタ好き』

写真提供：秋山次雄さん（芹田）

大発見？ 海に行ったらイソギンチャクがハタハタを飲み込んでいました。

びっくりしました。子どものころから海に行っていますが、これは初めてみた光景でした。



企画・編集／にかほ市広報委員会 発行／にかほ市役所
〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地
☎0184-43-3200（代表）☎0184-43-7510（直通）
ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp> 電子メールアドレス info@city.nikaho.jp

広報にかほ は、にかほ市ホームページでもご覧いただけます